第２回登別市総合計画第３期基本計画市民検討委員会 産業躍動部会 議事録

（敬称略）

◆ 開催日時　　平成２６年６月４日（水）
　　１８：３０　～　１９：２０

◆ 開催場所　　登別市役所３階　第２会議室

◆ 出席部会員　部会長　　髙橋　弘康
　　副部会長　小川　賢
　　部会員　　安達　陽子
　　近井　一夫
　　川田　弘教
　　志水　孝暢　（市庁内検討委員会　部会長）
　　【観光経済部　次長】
　　井上　昭人　（市庁内検討委員会　副部会長）
　　【観光経済部商工労政グループ総括主幹】

◆ 欠席部会員　部会員　　木村　義恭
　　白田　明義

◆ 事務局　　沼田　久人　【総務部企画調整グループ総括主幹】
　　大越　智輝　【総務部企画調整グループ主査】
　　田中　健太郎【総務部企画調整グループ担当員】

◆ 議題　　当市の産業に関する部会員の思いについて（第２回）

≪部会長≫

皆さんこんばんは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

第１回の時には、食や観光などについて積極的に思いを語っていただきましたが、今回も前回と同じように、進めていきたいと思います。

日にちを置いてみて、また違った考えや意見などがありましたら発言をお願いします。

≪事務局≫

次の会議から実際に体系図の策定作業に入ることとなる前に、皆で意識共有しておいた方がいいことを話した方がいいと思います。

市民検討委員会の他の部会も開かれており、その中でも、一次産業や道の駅の話は出ており、前回の産業躍動部会で話したような内容を話しております。

≪部会員≫

今回の部会に参加したことで、道の駅の話や農業、漁業の話は初めて聞いて、例えば、流通の話で、誰でも売ったり買ったりできない状況があることなどがわかりました。

まだまだ知らないことが多く、簡単にできそうに見えても、根本的なところから話し合わないと難しいという状況がわかった。

また、先日、登別の中札内で養豚を行っていることを初めて知った。

≪部会員≫
　繁殖させて、子供が産まれて何日か飼って、白老で育成しているようです。

≪市庁内部会部会長≫
　酪農と兼業している農家もあると聞いたことがあります。
　市内で養豚業者は、生産したものを販売していないと認識していたが、最近、販売されるようになったんですね。せっかくあるんだから、地域で消費されて欲しいですね。

≪部会員≫
　分娩はさせていて、札内である一定の大きさまで育てたら市場に持って行ったり、白老に持っていったりしています。

≪市庁内部会部会長≫
　出荷すると市場に出てしまうから、それを買い戻す形になります。

≪部会員≫
　市内流通はあまりしていないと聞いたことがあります。
　以前、給食の試食の時に登別牛は食べたことがあります。

≪市庁内部会部会長≫
　それは、一度、市場に出たものを肉屋さんが買い戻したということです。
　水産関係も同じ仕組みで、小売りをしていなくて、卸売りが中心なので、仲買人さんを通しての販売になります。
　また、登別漁港では、たくさんの種類の魚が水揚げされていますが、水揚げされる魚の８０％から９０％はスケソウダラなどの加工向けの魚が中心です。地元で販売できるだけの量があるかどうかということも考えなければならない１つのポイントです。

≪部会員≫
　そうすると、例えば、道の駅をやるにしても、いつも商品がないと難しいと思います。
　１年を通して何かの売るモノがあれば良いのですが、売るモノがないから閉めるということでは良くないと思います。

≪事務局≫
　大量に商品を置けなくて、売り切れるのは問題ないと思うが、最初から置いていないのは良くないですよね。お客さんが離れていってしまう。

≪部会員≫
　何をやるにも採算がとれるかどうかということも大切だと思います。

≪部会長≫
　登別ブランドがあるんですけどね。

≪事務局≫
　豚も牛もいますよね。
　いろんなものに取り組んでいるとは思います。

≪市庁内部会部会長≫
　行政としては、平成２３年度から登別ブランドの推進事業を行っていて、少しずつは前に進んでいると思います。

≪部会員≫
　ＰＲが足りないと感じます。

≪事務局≫
　食生活改善推進協議会など食関連の団体などで登別ブランド等の話が出ているか。

≪部会員≫
　話が出ることもあるが、試食会等があれば呼んだ方が良いと思う。
　試食会には、町内会の婦人部の役員などにＰＲすると良いと思います。
　女性の意見は大切で、建設的な意見も出してくれると思います。
　そして、各団体に戻った後に必ずＰＲすることを条件にすることなどの工夫をすると広がりやすいと思います。

≪事務局≫
　登別ブランド推奨品はＰＲしており、市民の中にも買ったことがある人も多いと思います。

≪部会員≫
　消費者協会が実施する生活展などに登別ブランド推奨品が出店することもあるが、買っていく人は買っていくけど、それっきりで、次につながっていない印象も受けます。

≪事務局≫
　他にブランドを使ったことがある部会員はおりますか。

≪部会員≫
　札幌でイベントがあるときなどに、登別ブランドを持っていっています。
　また、事業者に働きかけて、イベントにブースを出してもらったりもしています。

宣伝が足りないのは問題あると思うが、市民側で求めている人が少ないことも問題だと思います。
市民からは、登別のブランド品があったほうが良いという声を聞きますが、情報は結構あって、調べてみると簡単に見つかります。それを求めようとしていない市民が多くいるのかなと感じています。
聞いていない、伝えていない、伝わらないという部分をどのように解消していくかが大事なポイントになってくると思います。
できれば、一次産業の課題の部分を解消できれば、具体的な活動へつながっていくと思っていましたが、前回から話していると難しい部分も多いと思いますので、そこは長期的なスパンで考えながら進めていくとして、この段階では、市民レベルでできることをどうやっていくかということを考えるのが使命だと感じています。

≪部会員≫
ふるさと納税をしていただいた方に登別ブランドを提供する仕組みもありますよね。

≪部会員≫
登別ブランドは、日常的に自分たちが食べるものとして使うより、お土産で使うということで考えると、良いものがあるように感じます。

≪部会員≫
登別ブランド推奨品は、鬼ナビステーションで販売をしているので、そこがうまくいって、「販売面積が少ない」とか「建物が小さい」とかなっていったら、道の駅の可能性も考えられると思います。

≪事務局≫
みんなが少しずつＰＲすれば、浸透して広がっていくと思います。
しかし、行政で購入して配るわけにはいかないので、イベントなどを通じて、民間の方でやってもらわないといけません。行政としては、イベント開催に必要な経費にかかる補助金の申請など、側面的な支援はできるので、お互い得意な部分で役割分担して進めていくことが必要だと思っています。

≪部会員≫
ブランド品の販売促進の例でいえば、本州のマツバガニのようにタグ付けして差別化を図ることはできないか。

≪副部会長≫
現在、トキシラズで船上活〆して、専用のタグをつけて室蘭の市場に出荷しているが、船上で活〆したものとしていないもので、価格差が全くない状況です。
仲買人や料理人といった人たちの中で、まだ知名度も低く評価も高くないのだと感じ

ています。
　今は、これを受けて、漁業協同組合の中でも色々と模索している段階です。

≪部会員≫
　買えないくらい高いものでは使えないという話になると思うが、獲れたものをブランド化するのは、加工するより買ってもらいやすいような気がしています。

≪市庁内部会部会長≫
　いぶり中央漁業協同組合のコンセプトとしては、登別漁港は「衛生管理」をブランド化していこうという考えがあります。
　市場だけでなく、市場の周りの岸壁には、屋根がついていますし、氷１つとっても、魚の種類によって塩分濃度を変えることができる製氷機を設置しています。
　すぐに価格に反映されるわけではありませんが、産地間競争に勝つために、衛生管理をブランド化し、差別化を図っていこうという取り組みをしています。

≪事務局≫
　行政もその取り組みに対して支援しています。

≪部会員≫
　前回から話で出ているように、登別漁港であがった魚を買える場所がありません。
　どうしても、仲買人さんを通じて、一般の流通ルートになってしまいます。

≪部会員≫
　今、登別のブランドは、このモノだ、という話が続いているが、登別は、まず温泉というイメージがあります。
　それを中心とした広がりがもっとできないかと考えます。
　北海道では小さなまちでも「写真のまち」とか、そういうまちのコンセプトみたいなものがあります。
　登別は何になるのか。

≪事務局≫
　「〇〇のまち」と言っているような地域に住んでいる人の中には、そうではないと思っている人がいると思います。
　地域が分断されて一体感がないという話は昔から言われているが、どこのまちでも同じ感じだと思う。
　要は、売り出し方の問題だと思う。行政だけが「〇〇のまち」と言っているわけではないので、同じような仲間を集めて、それを力強く言い続ける人がいるかどうかだと思う。

≪部会員≫
　登別温泉について、おもてなしが足りないという声がある。
　皆がレベルアップしておもてなしができるようになっていけば、交流人口の増加につながる可能性が広がると感じる。

≪事務局≫
　全員が全員そうなるのは、現実的に難しいと思う。
　そのような人にスポットを当てるのでなく、いいことをしている人、できる人を見習って、こういうことをしていこうという方が、良いと思います。
　例えば、鬼花火など、温泉を盛り上げようとして一生懸命やっている人はたくさんいて、それをまわりがどういう目線で見るかということで、「盛り上げていこう」とか「支援してあげたい」と思ってくれる人がどれだけいるかだと思います。

≪部会員≫
　登別の特性で、温泉を盛り上げているのは登別地区。
　地域が広すぎて、なかなか一体になっていないと思います。

≪部会員≫
　地区の特色をいかして、それぞれ産業があって発展することが望ましいのではないか。

≪事務局≫
　それぞれの地域の方がそれぞれ、地域の良さを言い、それを壊さないことが大事だと思う。
　色々な団体と話していても、否定から入ってしまう方が多い現状があります。
　例えば、登別市民全員が温泉に入っているわけではなく、それではダメだという人もいるが、どうしてダメなのか。
　マイナスから話を展開しようとなる傾向があるが、良いところから見ていくのも話の仕方の１つだと思います。前向きに考えないといけないと思う。
　また、地獄まつり半世紀にあわせて、平成２３年度からの３年間、市民向けに温泉の良さを知ってもらうための事業を行いました。

≪部会員≫
　登別温泉はいつでも行ける印象があります。

≪部会員≫
　身近にあるものは、周りの人は、いつも行っていると思っているが、地元の人から見ると案外そうではないように感じる。

≪部会長≫

温泉は、いかなきゃ入れないけど、食べ物だったら買えれば食べられますよね。
先ほど、地域の特性の話がありましたが、隣町の室蘭市も湾があって東部・西部と分かれているように感じます。しかし、室蘭の方は小さいころから何を食べていたと聞かれたら、焼き鳥とかカレーラーメンというと思います。
しかし、登別で自分が何を食べてきたか振り返ると、思い出せるものがありません。今、登別で育った大人たちが思い出せるものがなくても、今の子供たちが、登別で育った時に食べたものをＰＲでき、他の地域から食べに来られるということができれば良いと思います。

≪事務局≫
室蘭のラーメンや焼き鳥を見ていると、同じようなことをいろいろな事業者がやっているのが良いと思います。事業者さんが、皆でやろうとなるかどうかは大きい。

≪部会員≫
イベントをやれば良いのではないか。
お店だけでやるのではなく、範囲を広げると良いと思います。
色々な団体にも声をかけて参加してもらうべきだと思います。

≪部会員≫
食のイベントだと、昨年から始まった「のぼりべつ夏祭り」があります。
その中で、「いぶりマルシェ」という食関係のイベントを行い、市内の団体にも協力していただきました。そこで、登別ならではの食べ物を提供してもらったが、アピールも足りなかったのか、あまり浸透させることはできませんでした。

≪事務局≫
いろいろな団体が関わっているのが良いと思います。

≪事務局≫
だいたい話が落ち着いてきておりますが、後は、体系図を見ながら進めていくということで良いでしょうか。

≪部会員≫
読ませていただいたが、特にいうところもなく、体系図を見ると完璧に見えます。

≪事務局≫
体系図は庁内でも議論が始まっており、考え方について、いろいろな視点からもう一度整理しているところです。
基本的に第２期基本計画をもとにつくっているが、この部会で話す内容は、結構変わっております。

進め方としては、上から順番に説明していき、１つずつ話をしていきたいと考えております。
内容を変更するには理由が必要となりますので、感覚的にならないよう留意して発言していただきたいと思っています。
また、体系図に入るからと言って、議論の内容を難しくする必要はないと思いますので、市民目線で見ていっていただきたいと思います。実際に携わっている皆さんの実体験に基づいて、施策の可能性について、例えば、行政と民間の役割の部分など、深いところまで議論いただいき、提言していただければと思っています。

≪部会長≫
第１回、第２回とそれぞれの思いを聞けたのではないかなと思っています。
次回から体系図の方に入っていきたいと思います。
次回の会議は、６月１８日（水）１８時３０分から第２会議室で開催します。